第4回 京都市京町家保全・継承審議会

開催日時	平成30年6月15日（金）午後6時～午後8時
開催場所	職員会館かもがわ 2階 第4・5会議室
出席者 （委員は、 五十音順）	<p>会長 高田 光雄（京都美術工芸大学 工芸学部 教授）</p> <p>委員 有本 睦子（市民公募委員）</p> <p>〃 内山 佳之（公益社団法人 全日本不動産協会 京都府本部 理事）</p> <p>〃 梶原 義和（公益社団法人 京都府宅地建物取引業協会 副会長）</p> <p>〃 木村 忠紀（京都府建築工業協同組合 理事長）</p> <p>〃 栗山 裕子（特定非営利活動法人 古材文化の会 顧問）</p> <p>〃 小島 富佐江（特定非営利活動法人 京町家再生研究会 理事長）</p> <p>〃 志藤 修史（大谷大学 教授）</p> <p>〃 中嶋 節子（京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授）</p> <p>〃 宮川 邦博（公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター 専務理事）</p> <p>〃 宗田 好史（京都府立大学 生命環境学部環境デザイン学科 教授）</p> <p>〃 山田 正太郎（有隣まちづくり委員会 会長）</p> <p>〃 若村 亮（株式会社らくたび 代表取締役）</p>
欠席者	<p>委員 井上 えり子（京都女子大学 家政学部生活造形学科 准教授）</p> <p>〃 伊庭 千恵美（京都大学大学院 工学研究科 助教）</p> <p>〃 遠藤 誠（市民公募委員）</p> <p>〃 大場 修（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）</p>
議題(案件)	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p style="padding-left: 2em;">京町家保全・継承推進計画（案）について</p> <p>3 第5回審議会の予定</p> <p>4 閉 会</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席表 ・ 資料1 委員名簿 ・ 資料2 京町家保全・継承推進計画（骨子案） ・ 資料3 今後の社会情勢の変化と京都市の各分野の施策の方向性及び京町家の保全・継承の施策の視点 ・ 資料4 京町家の保全・継承のこれまでの主な取組及び今後の方向性について

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局	<p>1 開会</p> <p>定刻となりましたので、只今より、第4回「京都市京町家保全・継承審議会」を開催させていただきたいと思っております。私は、都市計画局まち再生・創造推進室で京町家保全・継承課長をしております関岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては、大変お忙しいなか、御出席をいただき誠にありがとうございます。本日は残念ですが、井上委員、それから、伊庭委員、遠藤委員、大場委員が欠席されております。</p> <p>しかしながら、13名の委員の皆さまに御出席いただいている状況ですので、出席委員が委員の過半数を超えているということで、「京都市京町家の保全及び継承に関する条例施行規則第8条第3項の規程」により、審議会が成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>また、報道関係の皆さまにおかれましては、次第2の議題に入るまでの間に限り、撮影を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここからの進行につきましては、高田会長によりしくお願いしたいと思います。</p>
高田会長	<p>お忙しいなか、ありがとうございます。それでは、議事を進めさせていただきたいと思っておりますが、最初に事務局から、本日の議事の進行について、簡単に御説明をいただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>では、本日の議事について、御説明いたします。次第2の議題についてでございますが、本日は、前回の審議会で御指摘いただきました課題等を踏まえまして、「京町家保全・継承推進計画（案）」について、事務局案を作成しております。</p> <p>委員の皆さま方におかれましては、事務局案の内容を御確認いただき、課題や目指すべき方向性などについて、御議論いただければと考えております。本日の議事進行につきましては、以上でございます。</p>
高田会長	<p>はい。どうもありがとうございました。</p> <p>会議の公開について、引き続き事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>はい。会議の公開についてでございます。会議の公開につきましては、「京都市市民参加推進条例」に定めております。その主な条項について、御説明申し上げます。</p> <p>同条例におきましては、第7条第1項で附属機関の会議は、原則として公開す</p>

高田会長	<p>ることとしています。ただし、会議で非公開情報を扱う場合は、この限りではありません。また、同条第3項において、公開した会議については、会議録を公表しなければならないとされております。説明は以上でございます。</p> <p>はい。どうもありがとうございました。</p> <p>いま、事務局から説明がありました通りでございますが、この委員会、原則公開ということになっておりますが、今日は特に非公開情報を取り扱わないということでございますので、公開ということでお願いをしたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それから、議事録の話ですね。いつもと同じなのですが、事務局の方で議事録をまとめていただいて、各委員の方に確認をいただいて、公表するというようなやり方で今回もやらせていただきたいと思います。よろしくご協力いただきたいと思います。傍聴に来ていただいている方も、この要領に理解をいただきまして、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、よろしいでしょうか。特に進行について問題がなければ、今のようなかたちで、早速、議事に入りたいと思います。</p>
高田会長	<p>2 議事 京町家保全・継承推進計画（案）について</p> <p>議題となっておりますのが、今日は「京町家保全・継承推進計画（案）について」ということですが。資料の2から4までということですが、まず、資料の2と3について、合わせて説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料説明（資料2、3説明）</p>
高田会長	<p>はい。どうもありがとうございました。資料の2と3は、前回まで議論していただいたものの修正と、それから、フレームワークの確認ということになります。それで今日は、資料の2、3で、この審議会として、京町家の保全・継承の推進計画をどのように全体像を考えるのかという議論と、後で、次の議題として、資料の4のところで、個別の施策といいますか、どういうことをやればいいのかということについて議論をしていただくということになります。</p> <p>それをまとめて、最終的には、この諮問に対して答申をつくっていくということが、その後、作業としては出てくるというふうにご理解をいただきたいと思います。その上で、全体のフレームワークに当たる資料の2と3について、まず、ご審議をいただきたいと思います。</p> <p>今の御説明がありました範囲で、御質問、あるいは御意見があったらお願ひし</p>

<p>中嶋委員</p>	<p>たいと思います。いかがでしょうか。推進計画のフレームワークと、これに関連する現状の整理。あるいは、京都市で現在、行っておられる各施策の整理等をしていただいたと思います。何か、御質問、あるいは御意見等、ございますでしょうか。はい。</p> <p>フレームワークについて、資料2の1章の計画の位置付けで、平成12年度に策定された「京町家再生プラン」の後継計画に現在位置付けられているということですが、そうであるとするならば、このプランに従って18年近くさまざまな施策をされてきたのですけれども、それに対する総括というか、進捗管理が必要ではないでしょうか。</p> <p>割とふわっとしたプランだったと思いますので、それに従っていろんな施策を18年間されてきたその成果であるなり課題というのは、どこかで整理する必要があるのかなど。</p> <p>それを受けて、現状がもっと厳しい状況になってくるとか、あるいは観光業が、そのとき想定されたものとは随分と違ってきているとか、いろんな環境の変化、時代が、2章に出てくると思います。</p> <p>少し、やはり、この総括、反省みたいなものをどこかに位置付けないと、また「新しいもの」を作りましたというようなことにならないのかということへの懸念があります。</p> <p>それを、資料4の事業についてももうそうだと思いますけれども、どこかに入れていただければいいと思います。</p>
<p>高田会長</p>	<p>はい。どうもありがとうございました。これについて、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、資料4の方では、課題ごとの整理をしているのですけれども、その課題に対して、平成12年以降、どういったことを取り組んできたのかという、これまでの取り組みというものを書かせていただいています。</p> <p>そういったことを踏まえて、一定成果がもちろんあったということですが、依然としてまだ課題があるということについて、残された課題というかたちで整理をしているというのが資料4です。</p> <p>全て中嶋先生がおっしゃられたことを網羅しているわけではないのですが、部分的にはこういったかたちで、これまでのことを評価した上で、残された課題等を俯瞰した資料になっております。</p>
<p>高田会長</p>	<p>今の御指摘は、この「京町家保全・継承推進計画」のフレームのなかに、これまで京都市はこういうことをやってきたけれども、こういうところはできたけど、こういうところが、まだまだ不十分だとか、あるいは、いろんな施策を講じているにもかかわらず、町家の減少がどんどん進んでいると、そういう現状分析</p>

事務局	<p>なり、これまでの計画の課題をどこかに書き込むべきではないかという御意見です。</p> <p>そういうことでいきますと、2章のところに、そういったことを盛り込んでいくというかたちになるかと思えます。これまでの取り組みと、それに対する成果と課題とか。そういった方向にしていくというかたちにさせていただく。</p>
高田会長	<p>後継計画という位置付けの仕方の問題もあると思えますね。この町家関連の施策としては、こういうことをやってきましたが、今度の条例ができて、さまざまな新しい動きをつくらなければいけないという背景があつて条例をつくったわけですね。そういうことを加えて、単に今まであったものを継承するというよりは、その反省も踏まえて、次のステージとして「保全・継承推進計画」というのを立てましたという説明の仕方、場合によっては必要かもしれない。そういうことを言われているのですね。</p> <p>はい。ということで、非常に重要な御指摘だと思います。ほかに如何でしょう。はい、どうぞ。</p>
宗田委員	<p>資料3、資料2の計画のなかで気になる部分があります。この資料3の内容に関しては、前から私、いろいろ申し上げているのですが、2点ほど、もうちょっと改善したらどうかという点があります。</p> <p>一つは、この京都市の各分野の施策の方向性ということで、きちんと整理されているように見えるのだけれども、それが基本計画、基本構想はどういう視点になるのだろうかというのが気になりました。</p> <p>というのは、今総合企画局の方で、その点検の作業を始めようということになって、数年前につくったものをベースにしながら、それ以前にできたものもいくつかありますけど、その総合基本計画をベースに、各分野別の計画ができているのだけれども。</p> <p>あの基本的構想のなかでうたったのは、やはり、社会の大きな変化があるということに対して、どう進んでいくのかということです。今でも、覚えています、ワーク・ライフ・バランスとか、今のパリ協定に関わるような環境施策の新しいやり方を提示したりとか、地域コミュニティーのことも言ったりしています。</p> <p>それがこのなかに出てきてはいるのだけど、もうちょっと市民に分かりやすいかたちで、社会はこう変わっていくんだよということを指し示したものだのような気がするのです。</p> <p>ここに書いていることが悪いというわけでは、もちろんないのだけど、もうちょっと何か、上手なまとめ方があるのかなという気がします。その基本構想でいう、三つの目標とかいうのは立てましたので。</p>

事務局	<p>そうですね。歴史文化構想とか、そういったものとして掲げているので。</p>
宗田委員	<p>そのなかで、歴史都市京都がどう生き残るかということを意識していたという、それを書いてほしい。</p> <p>それから2点目は、左側の「今後予想される社会情勢の変化」というところが、こう書いてあって、ここに全体が載っているの、これでよしということにしていませんが、例えば、「1、人口減少・少子高齢化」というのは、25年とか30年くらい前、バブルが崩壊して、ちょっと後から、影響としては町家に関する取り組みは始まっているのですが。</p> <p>その間に高齢化率は、およそ、高齢者の割合が2.2倍くらいに増えている。その少子化というのは、子どもの数が、だいたい5分の3くらいに減っているとかいうことなので、かなりこの間、急速に社会構造が変わったわけですね。</p> <p>もうひとつ、その結果でもあるのだけど、単身世帯がぐんと増えてきているのですね。いま、京都でも4万近い世帯が単身者。こういう問題とか。それから、働く女性が増えたとかということもそうです。いろいろありますけど。</p> <p>これが、一番上の現状というところの「京町家の保全・継承の取組」というのが、(1)から(7)まで書いてあって、この間「京町家再生プラン」とかで示した目標が、かなり達成されている部分もあるのだけど、実は、あのプランをつくった20年近く前には、社会がここまで変化するということを予測できていなかった部分もあるのですよね。</p> <p>例えば、ご高齢の方の一人暮らしが増えることが予測できなかったというのはいうので、そういう厳しい状況があるだろうとは思っていたんです。その、京都の町中に一人暮らしのおばあちゃんが増えるとか。長屋が、そういうのがなくなれば、空き家になるだろうとは思っていたのだけど。正直な話、おばあちゃんが亡くなった後、このうちは空き家になりますねとか、あまり口に出したくもないし。出しても失礼だしというので、ちょっとこう、みんなで見ない振りをしてきたようなきらいもあるじゃないですか。</p> <p>でも、それは現実に起こっているわけだし。そういう長屋の問題とか、空き家の問題とか、それが町家だったらと、資料2の方の意識に関する問題で、京町家を残すことは家族の負担になると考えているということ、その背景にある変化というのを、まさにその辺ですよ。</p> <p>それから、もう1個。その下に「所有者や市民、事業者に文化的、景観的、経済的な価値が伝わっていない」と。これもまさに、中嶋先生が達成できなかったという二つの大きなポイントなのだけど。これが、何でこうなったかという報告は、計画のなかでは大いに反省しないといかんわけですね。</p> <p>それなりに、この京町家の保全・継承の取り組み、1992年、いまから26年前からこつこつとやってきて、順調に推移している。ただ、今後予想される社会情勢の変化と、いままでの社会情勢の変化を十分認識していたか、していないかとい</p>

	<p>うところを責めてもしようがないのだけれども。やっぱり、社会の変化の方が早かったということですね。</p> <p>それによって、達成できなかったこともあるので。いま、もう一度、この各分野の施策と、基本計画を点検しながら、こういうところで訂正していきましようというような、そういう文章で表現することになるとは思うのだけれども。それが、この京町家の保全・継承施策を検討する視点と連携して論じられるというようなことになってこないといけないと思うんです。</p> <p>そこに、いまのような高齢の方の一人暮らしの話とか、民泊の問題については、観光が伸びることは予想していたわけだし。外国人が増えることも予想していたわけだけど、じゃあ、それにどうい対策をやったのかとかいうことも、コミュニティの弱体とかという話も出てくるわけだけれども、そういうことを、どうやってきたかということが、全部ここで、やはり、ある程度書き込んでいないといかんわけです。</p> <p>民泊はまさに、昨日、今日、ずいぶん新聞等、テレビの方で報道されています。いまも、夕方のNHKの番組でも散々出ているのですけど。京都市は、比較的厳しい条例をつくったわけじゃないですか。厳し過ぎることを批判する向きもありますけど。</p> <p>でも、この町家の現状です。地域社会の、この間の変遷を見ると、ここで、「行け行けどんどん」でやるということは、やっぱり躊躇せざるを得なかったし、慎重にやりつつ、民泊が地域社会のなかで、市民の皆さんを怒らせないように。市民の皆さんを怒らせちゃって、嫌いになってしまったら、インバウンド、観光の町、そのものが否定されちゃいますから、嫌われちゃいますから。</p> <p>そうならないような、軟着陸をするということもしているわけですから。多分、それと同じような京都市の取り組みの方向が見えるようなものが、この資料3だし、その成果が、この資料2のなかに含まれるというような、その辺の丁寧な議論が、これからもう少し時間をかけてやるべきだなと思います。</p>
高田会長	<p>はい、どうもありがとうございました。第2章の書き方に対するコメントということですね。はい。他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>
有本委員	<p>資料3にあります京都市の各分野の施策の方向性というのが、京町家に関するところがピックアップされて書いてあることですが。これと、我々の審議会の関係性というか。そういうのが、ちょっとよく分からないのと。</p> <p>これだけ縦割りで、各部署でされている施策なり取り組みが、どう、町家が残ることに貢献しているなり、成果が上がっているのかというのが、よく分かりません。</p> <p>それと資料2で、4章の「横断的な取組」というところもあるのですけれども。そういうところにも、他の各分野との協働性というか、協調した取組とか、そう</p>

	<p>ということが、まったく書かれていないように思います。何かここに、資料3で、各分野の施策の方向性と書かれているのが、何か「だから何」という感じがしてしまいます。</p> <p>それと、生活文化の継承とか、住み継ぐということが町家の保全には大事なのかなと思うんですけども。この町家ができた背景とといいますか、そういうものというのは、おみそ屋さんだったり、お豆腐屋さんだったり、そういう家内工業というんですか、そういうものがベースにあって、できてきたのかなと思うのですが。</p> <p>今、ほとんどの方が勤め人というか、会社でお給料をもらっているような状態で。果たして、そういう住み継ぐというか、生活文化というのを残していけるといふふうに考えておられるのか、どうかというところをちょっと疑問に思います。</p>
高田会長	<p>最初に言われたのは、このフレームは、要するに、現状の社会情勢の分析があって、京都市の現在の施策のなかで町家関連のものを探して、その下に書いてある京町家の保全・継承の施策を検討するための視点を抽出するという、そういう論の立て方でどうでしょうかということなのですが。</p> <p>その方向性というのが客観的な情報を整理されたということなのですが、それを、どうしたらよいのかというふうに、言っているのですかね。</p>
有本委員	<p>じゃあ、審議会としては、そういう他の分野のこういう方向性を踏まえて。</p>
高田会長	<p>踏まえるかどうか。まあ、踏まえるというか、こういうものがあるということを経験として共有した上で、これからのことを考えましょうという話になるわけですね。</p>
有本委員	<p>これに則ってというか、こういうかたちで、考えていきたいと思います。</p>
高田会長	<p>ということを書いたらどうでしょうかという、これは第2章の、結局、第一節で書く。要するに、論の立て方について、ここで、こういう提案があるというふうに思っていたらいいと思うんですけどもね。</p>
有本委員	<p>分かりました。</p>
高田会長	<p>それはいいですか。これに対して、もし御意見があったら、また、それも言っていたらいいと思うんです。そういう話じゃなく、今言われたのは位置付けがよく分からないという、そういう趣旨だったんでしょうか。</p>

有本委員	そうですね。
高田会長	あと、二つ目の話は、それじゃあ事務局の方から。
事務局	<p>二つ目の御質問というのは、元々町家というのは、職住共存ということで、住まいと仕事がセットでやってきたという流れのなかで、サラリーマン化して、お住まいとしてだけ使っているというなかで、この生活文化の継承というのが本当に図れるのかという御質問と捉えていいでしょうか。</p> <p>生活文化の継承、発展ということにつきましては、この審議会のなかでも、まずベースであるということもおっしゃっていただいていますし。京町家の保全・継承に関する条例のなかでも、そこはすごく大事なポイントだというふうに捉えています。</p> <p>職住のかたちというのも、それぞれの時代、時代に合わせて変わってくるということもありますし、生活文化の継承ということ言えば、日々の暮らしのなかで、町のなかで暮らしていくということのなかで、また、継承されていく。町家の中だけで完結するものではないので、そういった、町生活文化の継承みたいなことも含めた、広い概念で捉えています。</p> <p>いろんな仕事の形態とか、生活スタイルとか、ライフスタイルが関わっていくということではあるけども、京都の町中で暮らしていくということにおいて、今後に残していくべき。むしろ、また新しく発展させていくべき、そういったものだというふうに捉えていると考えています。</p>
高田会長	よろしいですか。関連する御意見が皆さん色々あるとは思いますが。
宗田委員	<p>ちょっといいですか。文化遺産とか文化財というのは、物は残るんですけど、中身の人は変わるんです。だから、人の暮らしぶりも、そこに住んでいる人の価値観も変わるんです。</p> <p>でも、そのまま、物まで壊すことはないだろう。だから、例えば仏像は、もう、お寺であれば、そのまま仏像なんですけど。捨てられれば、博物館に収用してしまうのと同じように、そういう古い物というのは、それでも大事にして。</p> <p>そのとき、中に住んでいる人が、古い家に拘束されて、昔の生活をするなんていうことは、もちろんあり得ないし。じゃあ、二条城を残すために徳川慶喜を誰か連れて来ますか。そんなことはないわけであって。</p> <p>だから、家の中に住んでいる人にそんなことはしませんが、新しい暮らしをしている人ですよ。すっかり新しくなって、ファストフード化してしまっ、そこから中のどこにでもある、ただの暮らしになるわけですが。</p> <p>せっかく京都に住むのだったら、その京都の生活文化を大切にする暮らしをしたいなと思う人が、いま、急速に増えているものですから。そういう方たち</p>

高田会長	<p>が、町家が欲しいな、町家に暮らしたいなと思っているわけです。そういう人たちがいる以上、京都に物を残したら、そういう生活文化も残せる可能性があるのです、古い人でなく、新しく町家を好きになってくれた人たちに生活文化を維持してもらいましょうという装置として、そういう人に町家を受け渡しましょうと。嫌な人は別に無理することないですよという、そういうことを考えて。</p> <p>今のような御意見もあるんですね。もっと多様な御意見があるなかで、生活文化という言葉が使われていて。私の理解では、今、残すという話になっていますが、そうじゃなくて、現代の京都の市民の生活のなかで、現代的な価値として京町家の生活文化と、現代的な価値が、あるいは、むしろ未来に対して、そういう継承していくということが、いまの課題に対して、非常に重要だと。そういうポジティブな。</p> <p>古いものを残すというのでなくて、それを継承することが、いまの問題を解決したり、これから、未来に対して、新しい価値を切り開いたりしていくことに対して、生活文化の継承や発展というのが必要だとは、そういう議論もかなりあったというふうに、私自身は理解をしています。</p> <p>だから、京町家を残さないといけないという話になっていくというようなロジックもあったというふうに思いますし、もっと言うと、さらに広がりのある議論が、これまでは行われてきたと思います。</p> <p>一方で、先ほどの職住の話でいうと、町の中で仕事をして生活するというスタイル自体も、また再評価されて、そういうスタイルを尊重しましょうよというような、そういう議論も、これまで何人かの方から、そういう議論もしていただいていたように思います。</p> <p>そういうことも複合的に考えて、必ずしも、過去のものを残すという議論で、この生活文化の継承という言葉が使われているわけではないということをやっと補足してみたいと。そういうのでよろしいですか。有本さん。</p>
有本委員	<p>いいです。</p>
高田会長	<p>いいですか。ほかにいかがでしょうか。はい。どうぞ。</p>
志藤委員	<p>すみません。内容としては、もう概ね、御提案いただいている内容で理解はできるのですが。最後の資料3のところ。先ほど、宗田先生がちょっとおっしゃっておられたのですけれども、今後の町家、「京町家の保全・継承の施策を検討する為の視点」のところ七つあって。</p> <p>そのうち、最初が、社会の、人口構成の変動というものを筆頭に掲げられているのですけれども、これは、今後、予想される社会情勢の変化と、都市計画というところの文言から引っ張ってきておられるのかなと思いますが、一番の人口減</p>

	<p>少、少子高齢化に伴うものというところの(1)というものの中身が、何となくつながりが分かりにくいのですね。京町家の新たな担い手への継承は、空き家の活用促進というものと、人口減少、少子高齢化に伴うものというものが、果たして文言としてつながるのかということ、ちょっと検討が要るのではないかと思います。</p> <p>そういう意味でいうならば、人口減少、世帯の変化。都市計画のなかにも、要するに、多世代世帯が安心し、日常生活エリアのところですけどもね、快適に居住する、いわゆる世帯の変化と暮らし方の変化を、今後、日常生活エリアのなかで充実させていきたいと思いますという、こういう中身だと思うんですけども。</p> <p>そこをつなげられるのであれば、別に人口減少、少子高齢化ということ(1)のところに掲げていくよりも、ちょっと別の表現を採られた方がいいのではないかなと思いました。</p>
高田会長	<p>どうもありがとうございました。いまのようなレベルで論理性がきちんと、このフレームの中で、確保されているか、どうかということからいうと、ほかにもあるかもしれませんね。きちんと、第一節から流れてくるようなかたちになるように考えなければいけないということは、あると思いますが。</p> <p>あれですね。特に、最後のところの視点のところのフレームについて御指摘いただいたということ。最初の社会情勢の変化とか、施策の、これまでやってきた整理というのは、ある意味では、こういうことになると思いますが。それを踏まえて、どのような論を立てるかということでは、いまのようなことを含めて議論しなければいけないということになると。文章化したときに、要は、きちんとした。</p>
志藤委員	<p>そうですね。表現がとれるかどうか。</p>
高田会長	<p>論理が通るように考える必要があると、こういう御指摘だと思います。はい。</p>
小島委員	<p>具体的な取組。これからのことっていうものの、全体の計画なんですけれども。その最初の資料2の2章に「さまざまな保全の取組にもかかわらず年間2%の割合で」というのがありますけれども。それがあってもかかわらず、具体的な取組みというのは、以前のもので、そこまで変化がないように思えるんですね。</p> <p>10年前も、専門的知識を持つとか、技術者とか、後継者の育成とか。そういうものは全部、ついていたんですけども。このあまり変化のない言葉に、次に文章化か何かされるときに、ここに新しいものが盛り込まれるのでしょうか。というか、これまでの、最初に中嶋先生がおっしゃった、いろいろなものを振り返って、きちんと検証して、次に新たにということになるのでしょうか。</p> <p>ただ、この資料を読んで方向性を見ていると、そこまで変化がないように見え</p>

	<p>るのですが。10年前の資料と、この資料2、3を見比べて、何か変わったところが本当にあるのかなというの、ちょっとすごく気になるところです。</p> <p>それと、私も京町家の保全・継承の施策を検討するための視点というところも、何か分からないのですが。1も2も、前とそこまで変わっていないし、5に至っては「防災・危機対応」、「京町家により構成された都市建築システムの継承・発展」というのが何のことなのか、もうひとつ分からないし。</p> <p>密集市街地をどうするかという話も、何か、防火の問題とか防災の問題があるにもかかわらず、継承・発展というのが、どういうかたちのものなのか。この具体例をどんなふうを示されるのかというのも、もっとこう何か、しっかりとした土台が要るのではないかと思うのですが。何かこう、ちょっと総花的に並べすぎているのではないかなという気がします。</p>
高田会長	はい。資料の4の話にも入っているような気がしますが。
小島委員	ちょっと読みました。そういう気がしたので。
高田会長	今のような御指摘に対して事務局の方から、説明いただいた方がいいことがあれば、言ってください。
事務局	<p>若干、資料4の中身も入っているということなのですが。資料4の方が、確かに、これまでやってきたことを踏まえて残された課題ということに対して、何かをアクションしていく必要がある。そういうことを投げ掛けている資料ではあるのですけれども。</p> <p>具体的な取り組みとして書いていることについては、実は、既存施策を継続するとか、拡充する。現時点において、我々として拡充しようということ動いている話であるとか。平成30年度予算で新たに拡充したことを中心に書いているというところがございます。</p> <p>ですので、もう少し、これまでやってきたことについて、こんなやり方があるんじゃないとか、こういう主体者に、こんなふう動いてもらったらいんじゃないかといったことが、まさにこの審議会のなかで御意見をいただいて拡充していきたいと考えているところがございます。</p>
高田会長	関連することで他に何かあればどうぞ。
木村委員	<p>資料2の第2章「京町家を取りまく現状と課題」というので、下に1、2、3。流通、維持・修復、および意識に関する課題というのがあるのですけれども、京町家が減っていく基本的な課題は3なんですよ。</p> <p>基本的に、持っている人の意識が低すぎるというのが絶対に引っ掛かっている</p>

高田会長	<p>ので。そやから、これを何とか変えんことには、流通のなかで相続税うんぬんやとか、そんなんは、当然あることなんですけれども、これはまだ施策として何とかなるんですが、3番はこれ、思い切り市民に訴えていかへんかったら、まったく意識を変えんことには、町家は残っていかないような気がするんです。この辺をもうちょっと、たたいてほしいんですけども。</p> <p>はい。ありがとうございます。2章の2というのが結局、資料の4の一番大きなフレームになるので。今の御意見は、順番も変えたらどうかという話も含んでいるのかもしれませんが。意識という言い方の問題もあるかもしれません。価値観が関わる議論というものを、もう少し深めないといけないんだという、そういう御指摘だと思います。</p> <p>これは資料4の、多分議論をやってから、もう一度、いまのような今後の2章の2節の構成については戻ってきた方がいいかなということ。まだ、言いたいですか。</p>
中嶋委員	<p>よろしいですか。大丈夫ですか。</p>
高田会長	<p>大丈夫。</p>
中嶋委員	<p>4章に関わることでもあると思うのですが、まずは、この計画案の骨子が議論すべき案が今日の議題だと認識しているので申し上げますけれども。これから、これ、内容というか、変わっていくんですか。</p> <p>例えば、2章の話が出ているので、課題のなかで三つあって、1番で流通・継承とか、後でも4章のところの1番に、流通・継承とか出てくるのですが。本来、継承があって、流通があるんじゃないかと。何か、そういう細かいところなんですけれども。</p> <p>あと、3章にしても、いきなり何か対象の地区から始まるのですけれども、やはり、基本的な理念が5番目に来て、これでいいのかとか。何か、細かい構成がすごく気にはなるのですが、これが、後々議論されるのであれば、それでいいのかなと思うのですが。今の時点で気になるということで、将来的に、ここでの議論を受けて見直すということも考えていただければと。</p> <p>それは、具体的な取組、4章もそうで、小島さんがおっしゃったように、これだと、これまでやってきたことと、あまり変わった計画に見えてこないというふうに思いますので、やはり、どういう取組を、この10年間、重点的にやるのかという。これまでの継続の事業もちろん、やっていくべきなのですから、この10年、何をターゲットにしていくのか。</p> <p>先ほど、木村棟梁からありましたように、意識を変えていくんだということを前面に出すのだったら、それが分かるような、やはり構成にしていかなければい</p>

	<p>けないかなということもあるのです。</p> <p>議論はしますが、この、もっと最終的な段階で、少し目次なんかも、もう一度、見直していただければなというふうに思います。以上です。</p>
高田会長	<p>先ほど、志藤委員が言われていたのも、結局、そういうことだと思います。大きなものの論の立て方とか、検討する対象というのを資料2、資料3ということで、一応、御確認をいただいて、修正もして。すでに前回の御意見を踏まえて、修正もしていただいているわけですが。</p>
事務局	<p>あと、この資料4の施策の議論を踏まえて、もう一度、フィードバックするというので、取りあえず、資料4の議論に移ってよろしいでしょうか。そういうことで、問題ないですか、事務局。今のような位置づけで。資料2と3については。</p>
高田会長	<p>はい。</p>
事務局	<p>はい。それじゃあ、資料4の方の説明をよろしくお願いします。</p>
高田会長	<p>資料説明（資料4説明）</p>
宗田委員	<p>はい。どうもありがとうございました。それじゃあ、この資料4で、個別の問題とまとめ方の、多分両方あると思います。先ほど、小島さんから提起されたあれですね。これまでの施策と、新しい施策との関係を。あと、木村棟梁から順番についても、御指摘があったと。はい。どうぞ。</p>
	<p>まず、全体についていうと、今日、これ、詳しく見せていただいていたんですが。既存の制度を生かそうとするあまり、何かここで、この条例と審議会によって大きく変わるということが、ちょっと見えにくくなった気がします。</p> <p>その代表的なのが、一番冒頭の「京町家何でも相談」の専門員の策定。これは、前の計画で、市での中心になってもらってやってきた制度で、十数年機能してきたわけ。まあ、20年近く、機能してきたわけですね。それをそのまま活用しなきゃいかんのかっていう話になるんですよ。</p> <p>さっき、そろそろ反省することもあるんじゃないかとなるんだけど、確かに、何でも相談というのは、当初はよかったんだけど。結局、何にも相談できないようなゼネラルな対応だったんです。</p> <p>今回の、この取組というのは、不動産流通に関する課題で、不動産流通を本格的に始めようと。町家の不動産流通を本格的に始めようとする狙いを持っているものだから、何でも相談ではなく、不動産屋さんとか。あるいは、工務店とか、設計事務所とか、いろんな業界に直接頼みに行けるというところに、多分大きな</p>

特質があるので、これをいったん、従来通り、何でも相談で受けますというやり方が正しいかどうかと検討するべきだと思う。

少なくとも今回は指定町家に関しては、市に関しては、続けてくれるというので。そういうふうに、市役所に、まち再生・創造推進室に来たものを、いったん町家に振る必要があるのかとか。その辺の仕組みが、これから、多分、詳しく議論されると思うのだけど。

ちょっといったん、この「京町家なんでも相談」の仕組みというのは、今、この条例で、この仕組みをスタートするときに、ちゃんと丁寧に考え直すべきだなとは思うんですね。その取組が、ちょっと分かってないということと。

それから、それが1点目で、何でも相談の話をしたとすると。建築関連業者とも書いてあるのだけど、不動産屋さんを、どうこの仕組みのなかで。ここに、登録団体、対応事業者、会員事業者、いろいろ書いてあるのだけど、どう活用するかということが、まだ、我々に見えていないというところがあつて。

この流通をお願いするっていうのは、どうしても頼る必要があるのだけど、それぞれ、建築家さんと宅建さんと両方おそろいですが、不動産業界っていうのは、大手から中小まで、ばらばらあるわけです。

だから、例えば、ある美術品を買いに行こうと思ったら、デパートから、町の骨董屋さんとか、大きなご商売のさん。それから、車を買に行こうと思っても、トヨタ系列のトヨタとか、トヨタカローラとか、ヴィッツに行く場合とあつて。それと、町家ですから中古車販売をやっているような小さな業者さんがあつたりとか、個人で車のディーラーをおやりになつたりしている方とか。なかには、ジャガーとかいろいろあるわけです。

それくらいあるわけで、我々はそのなかでも、町家という中古のというか、あるいは外車並の骨董品価値を持ったものを扱う専門の業者さんというのを、どうやって選ぶんだということがありますよね。

工務店さんでも同じことで、町家をお得意とする工務店さんと、大工では一応あるけど、一応二級建築士は持っているけど、そんなことやったことがないという業者。大多数のそういった人たちがいるなかで、じゃあ、お客さんというか、消費者は、どういう判断で、その業界に行くのかということがありますよね。

この辺が、今、仕組みとして、本当に機能するかどうか。町家の所有者。あるいは、町家を不動産業者経由で買いたい人、借りたい人とか。あるいは、工務店さんに行くときに、どういう仕組みで、その企業と。まあ、経験とかで見ていくのだと思いますよ。

今、レストランなんかだと「食べログ」とかいうのがあつて、すごい、お客さんの反応がだらだらと出てきて。この店、どうも最近、人手不足でアルバイトの店員が来ていないみたい、30分待たせた、みたいな。すぐ、書くじゃない、こんなのでは行かないみたいなことを。

そういう情報が、どんどん、今発信されるようになっていきますので。そこを市

として、どう考えるかという。これが実は、さっきのなんでも相談と同じことなのだけれども、いままでの建築行政、あるいは、不動産行政というのを、国土交通省、それから、市とかいろいろと蓄積があるわけで。そのノウハウの、過去半世紀のものを、どう活用してやるかということは、まさに腕のさえを見せていただきたいところかなという感じがします。

それから次は、また別の話なのですが。4ページ、5ページのところに、「京町家の掃除、建具替えの時のボランティア活動」とあって、そうだな、確かにこういうのがあるなと思ったんです。昔、町家調査をやるときはボランティアをたくさん集めまして、その後も、こういう町家の維持・継承に関するボランティア協議会とかというのをつくったことがあったのですが、最近、やっていなかったなというのがあるので。この辺を、市政が得意とするような取り組みで、もう一度、まちづくりボランティアを集めることが。

というのは、当時は使わない町家を何とか流通させるために、いったんきれいにして、ごみを出して、がらくたを出していただくというお手伝いをするということを中心にやっていて、情報センターが中心にやっていたのですが。

今実際、ごみ屋敷みたいなのが増えてますし。高齢者の一人暮らし。これは例えば、不動産屋さんが見つめてきて。もちろん、お金をかければ済む話なのだけれども。ちょっと、市民の意識を変えるためにも、何かそういう取り組みがあるかなという気がします。

それからさらに、これは6ページのところに出てくるのですが。9ページのところの学校教育のことも、これもちょっと言いたかったのだけど。最近、和食のことにするようになったら、芽生会の方たちとか、食育にすごく熱心になってきて、京都市の教育委員会とがっちりタッグを組んでやっている。もうだから、ある意味、必ず教育長がおいでになるのですが、小学校を回って、だしの授業をやっているのですね。かなり、高度なことをやって。コンブの汁をまず、延ばして取り出してとか。カツオをちょっとこうやると、味がきゅっと締まるとかいうことを、小学生にやらせているわけです。それを、一流の料理人が。カツオのだしの違いが、僕なんか分からなかったところがあるんですけど。ということをやっ

て。そうしたら、大工さんが、あるいは、設計事務所がもうちょっと、住育とか、住教育、あるいは、木の教育とかいうことに、不動産屋さんが乗り出していただいてもいいかな。昔、京町家再生研究会で、職人さんたちに、小学校に集まってもらって、町家のああいうことをやったことがあるんですけど。あれを、もう1回、その取り組みとして実現するということがあるだろうと思うんですね。

それから、最後です。これは、景観づくり協議会、地域景観づくり協議会のことが、ここに書いていただいているのですが。この取組の目標は、地域景観づくり協議会を通じて、指定する町家と、地区を指定するとかいうことを、ぜひ、住民の方から発意していただきたい。

<p>高田会長</p>	<p>大きな流れは、この審議会の部会をつくって、個別の町家を指定する、あるいは地域を指定するという作業に、もう来週から入っていくことだろうとは思いますが。地域の価値として上がってくるようなものが、この地域景観づくり協議会の自分の役割だということですね。ここにもちゃんと取り込んでいただいて、ぜひ、そういう地域景観づくり協議会があるというところ。これからつくろうとするところを把握して、皆さんの力で、町家を守っていくことができるのですよということが分かるように書いていただくことがあるだろう。</p> <p>最後ですが、1ページに戻って、2の「市の介在する京町家の賃貸モデル事業」という、素晴らしい提示をさらっと書いてあるのですが。御所東団地を、京都市住宅供給公社がやっている事例もありますし、今後、これを増やしていくということの重要性を我々も深く認識するわけですが。</p> <p>ここは、ここに書いてあるように、政策的な目的で活用すると書いてあって、この辺の政策が、どういう意図で、どういう意味があるかということ、また、ここで議論してもいいと思うのですが。</p> <p>そうすると、さっきの京都市の各局の行政も関係して、環境目的だとかというような、都市計画以外の各部局で、あるいは、そういう政策課題ができたときに、市民に分かりやすいかたちで、この賃貸モデル事業に京都市が乗り出せるような方向が、ここでできていいかなと思いますし。</p> <p>いままで、京町家再生プランで、数年前からやっているような大学に使ってもらったとか、地域のお年寄りたちの拠点にするとかいうような、いろいろな提案が、ここで、多分出てくると思いますので。</p> <p>この1の②という、ここは非常に重要なポイントだと思いますので、是非とも議論して、温めていきたいところだと思います。以上、取りあえず、できていると思いますが、それぞれ、いろいろ言いたいことがあるなということです。</p>
<p>栗山委員</p>	<p>はい。ほかにいかがでしょうか。どうぞ。</p> <p>大枠はいいのかなというふうには思うのですが。やっぱり、何か腑に落ちないというところは、やっぱり、まずは、今回の目玉商品があるからということがあるかもしれないけど、まず、流通なのかというところが、やっぱり、建物に執着する私なんかは、まず、維持管理とか。その建物があること自身が、値打ちがあるというか。そこが値打ちなんですからというところがあって。</p> <p>もちろん、住まい手がなかったり、荒れてしまったりしている建物なんかは再活用というか、活用というものになっていかないといけないのでしょうけれども。まずはこれが、今回の目玉であるから第一に流通をさせましょうというようなかたちになっていくのが、大変、今あるものをそのままに、何とか継続させていくために、2番目の維持修繕とか、改修とか。そういったところを、まず、持ち主なんかに啓蒙をして。で、その後が、流通なのかなというところがあって。</p>

これを、先ほどの資料2のときも、やっぱり、一番目が流通なのかなというのは、やっぱり感じますね。

なので、維持管理に関してのいろいろな施策が打ってあるので。ただこれは、施策とは言えないようなものも結構あったりする。その辺りは、もう少し統合的にやっていかないといけないのではないかなというふうに思います。まず、そこが1点ですね。

それと、維持管理のところでは、まずは健全化をしてもらわないと、誰が住むにしたって、建物自身が健全化しないといけないわけですから。そういったものというのは、先ほど改修方法のこともありましたし、材料のこともありましたし。どこかで、地域産材を使うとか、いろいろそういうものがありましたけど。

それは本当に、先ほど言った木造の文化のですね。ですので、私は町家だからとか、近代建築だからとか、数寄屋だからとかいうことをのけてでも、やっぱり京都是、やっぱり木造文化というのを発信していくような、そういった場所が必要なんじゃないかなというふうに思っています。

これが、10年計画であるのだったら、やっぱり最終的には、これはどここの、これは伏見にあった町家だよとか、それから、西陣の、これ、町家です、これ、織り屋建てですとか、そういった資料がきちんと学べるような、そういうセンターとか。木造建築文化センターとか。そういうようなところが要るのではないかな。

その片隅では、いつも大工たちが、何やらの家でメンテナンスができるような手法をお施主さんに教えることができるとか。ふすまを貼り替えるときは、こうやって外して、こうやってふすまを貼るねんとか。そんな講習を、実際の講習をやれるとか。何か、そういったところは、この施策でいきますと、6ページの、ただ、取り置きした建具を使ってもらおうとか、そういうことではないんです。

ちゃんと、建具は建具なりのかたちには、文化がちゃんと宿っているわけですから、それを正統なかたちで使ってもらえるような、そういう手法をちゃんと渡してあげられる。それが、言ったら木造文化です。

それには、こういう材料を使って、こうなっているんだというのを、ちゃんと納得してもらえるような、そういった場所が要るのではないかな。それには、下にあるような大工さんであったり、建具屋さんであったり。そういった人たちが、そこでいろんなことを発信できるような場所が要る。

そういったところから、再利用活動等とかいう、そういうことでは全然ないことなんですね。使えばいいかと、そういうことじゃない。なので、その木造文化を伝えるというような、そういう拠点を創造していくんだというようなことではない。

今、ここで改修をしていくような、建具は、スプルスですとか、アカマツは、どんな感じなのかなとか。そういったものが学べる場所が、今は全然ないですから。そういったところが発信できてこそその継承なのかなというふうに思っていま

	<p>すので。</p> <p>やっぱり、ものを残すというときは、ものと、それから、それに付随した技能と一緒に伝わっていかないと。それは、文言とか、学校の勉強とか、そういったものだけでは勉強できないところなので。そこを、建物を継承する。その建物が健全化したものに関しては、それを理解した住まい人を探すとか。何か、そういうようなかたちになっていくのかなというふうに思いました。それが1点。</p> <p>もう一つは、これの最後のところにも、新築京町家の、そういったものの基準をしていきましょうということなんですけど。今、これをするのも、もちろん大事ですけども、今、町のなかに埋もれている町家と認識されていない町家というのが結構たくさんあって。この、消滅して、だんだん減っていつているという以上、現状は、もっと町家は多いと思っております。</p> <p>このなかには、銭湯とか、そういう商売をやっていたとか。それから、スクロールしていった近隣の周辺、下鴨とかですね。ああいったところにある、町家の要素を残した住宅ですね。そういったものは、多分入ってないと思うんです。</p> <p>ですので、そういった新しい、いままでカウントされていなかったような町家と言われる、高密度に住むという、そういう住居がどこら辺までを町家と言えるのかというのが、大変難しいところなんですけれども。</p> <p>そういったものを、学校の先生もようけいらっしゃいますので、きちんと定義をつけていただいて、その沿線なんかも、そういったところで、町家のそういった木造とか、センターみたいところで、ちゃんと町家の変遷も学べる。ここまです町家というというものも、やっぱりこう、つくっていかないといけないのではないかなというふうに思いますので。</p> <p>それを、この最後のところでもいいので、1項目入れて、現在ある町家の発掘というか、再認識というか。そういったものも入れていただいて、この資料2のところの7の、その他のところにも、やっぱりそういう項目が要るのではないかなというふうに。長くなってすみません。</p>
高田会長	<p>はい。ありがとうございます。最初、言われたのは、先ほど、木村棟梁が意識の話をもっと前面に出すべきだと言われたのが。栗山委員のいまの発言は、この二つ目のやつをもっと強調した、そういうあれですね、という。まあ、いろんな意見をいただいた。</p> <p>それから、二つ目に言っていた話は、維持管理のとか、改修の話として、いま、されましたけど。いまの意識の話という側面もかなりありますね。教育とかね、というような位置付けでもあるのかなと思ったのですが。そういう理解でよろしいですか。</p>
栗山委員	
高田会長	はい。

小島委員

はい。はい、どうもありがとうございます。はい。

まずは、ささいなことから入りますが。資料、1ページ目の2の「市の介在する京町家の賃貸モデル事業」というので、マッチング制度ではうんぬんのところで、「所有者から安価で借り上げる」という、この「安価」というのは要らないんじゃないかと思うんですね。

何でこんなこと書かんなんのかというのが、正直、ちょっとかちんと来ます。みんな一生懸命、残そうと。残そうというか、維持しようとしてはる人たちに、安価やから借りたげるわってという言い方は、とても上から目線だと思っております。

だから、ちゃんと適正な価格で借りたらいいいという、お互いの納得があればいいんだったら、何か、これはすごい大きな勘違いやなあ。市が借りたげるんやから安くでいってという、そういう、何か意識の、そういうものが見え隠れするような気がしますので。こういう文言は、とても気を付けていただいた方がいいと思います。

それと同じ意味で、11ページに「京町家まちづくりファンドサロン」というのがあるんですが。所有者のためにするんだったら、「まちづくりファンド」を受けた人たちだけでなく、ほかの京町家の所有者も一緒にしたことをしないとイケないのに、ここでは「所有者等」という、「所有者等を対象に」という、こういう書き方してあると、何かとても特殊に思えてくるんですね。

ですから、そんな「まちづくりファンドサロン」なんていう名前じゃなくて、普通に「京町家のサロン」とか、「京町家所有者の会」とか、そういうふうにして。何か、このファンドというのが、すごく前に押し出されているような感じがするので。あまり、所有者目線になっていないのではないかなという気がしました。

それから、2ページのところの「景観重要建造物、歴史的風致形成建造物」の指定の推進というところがあるのですが。私とこ、前、モデルになって、相続税の軽減が、こういうものを掛けられたら、単に30%じゃなくて、鑑定評価がもっと下がるっていうようなことがあったんですが、そういう取り組みがあったことすら、こら辺には何も見えてこない。もっと鑑定評価のこととかに言及すべきではないんでしょうか。

それが、いい方にも、悪い方にも働くかもしれないですけども、ちゃんと維持していこうという人たちのためには、鑑定評価が下がるよという言い方をしてあげてもいいのではないかなという気がしました。

それから、次は4ページの「京町家カルテ、京町家プロフィール」ですが。このカルテやプロフィールについては、いいとは思いますが。ただ、ほかのところができないんですね。それがないと融資が受けられないという。融資が受けられないとか、何かそんなふうには、割とこれだけに固まってしまっている感じがす

<p>高田会長</p> <p>中嶋委員</p>	<p>るので。</p> <p>「京町家カルテ、京町家プロフィール」というのだけではなく、もっと。もっと何か、一般に出せるようなものを。こういうのだけじゃなく、普通の民間団体でも信用できる場所があるんだったら、これに類するものができるようなものを、もっと広めない。単にこれだけでは、広がっていかないと思います。ですので、ここは再考していただきたいなと思います。</p> <p>それから、5ページの先ほどの、建具を替えるなど、日常の掃除や建具替えなどについて総合情報サイトを構築するということがありますが、これ、私の個人的な意見ですけれども、草を取ってもらおうとか、お掃除してもらおうとかは、すごく、いろいろなところが、最近、出てきていているのですが、こういう日常の掃除や建具などの依頼をすることができる活動団体や事業者等について、単にやってもレベルの差がありすぎて、とてもトラブっているところもあったりするんですね。</p> <p>ですからそこら辺を、単に情報を提供するなんていうのと、この安心してという、この「安心」の担保というの、どこでつくのかというの、もうちょっと所有者に対しては、手厚く情報を出していただけるような、何か書き方をしていたいただきたいなと思いました。</p> <p>それから、9ページに「情報発信の強化」というところがあります。中でも、8ページの「条例等の周知」とか、いろんなところで周知という言葉や、情報発信というのが出るのですが。</p> <p>今までにも、こういう冊子、ものすごくたくさんありますし。私とこにでも、ようけあります。京都市が出しておられるもの。それでもまだ、あまり効果がなかった。まだ、これ以上、同じようなことをするのかということも、とても気になる場所です。</p> <p>それと、この「情報発信の強化」のところの、「まちづくりファンド改修助成事業記録集」というのがあって、ファンドをもらったところの情報を記録集として出す。それを、総合情報サイトへ掲載すると書いてありますが。何か、ファンドをもらったとこだけがいいとこなのかというような気にもなりますので。もう少しならかに、いろいろなものを集めてきて、出せる場所は出してもらおうというようなことも考えた方がいいんじゃないかなと。</p> <p>何か、ここだけが特別。まあ、ファンドをもらったから情報を出すのは当たり前という、そういう逆の発想があるのかもしれないですけれども。いろいろなものがあるなかで、何か、こういう特定のものだけになるというのは、本当にいいことなのか、どうかというのが、すごく気になりました。取りあえず、それだけです。</p> <p>はい、どうもありがとうございます。他に、いかがでしょう。はい、どうぞ。</p>
-------------------------	--

事務局	<p>ちょっと、そもそもの質問なのですけれども。この資料4。すごく詳しく書いていただいているのですが。今回の計画ですね。ここに、この事業まで全部出てくるということなのではないでしょうか。いや、要するに、資料4をつくっていただいて、この資料内容が、そのまま計画のなかに書き込まれるという。以前の「京町家再生プラン」は、もっと大きなお話だけで、事業自体は書いてなかったかと思うんですけれども。この辺をちょっと確認しておきたいのですけれども。</p>
事務局	<p>そうですね。ここまで細かく書くのかというのは、確かに京都市の行政計画のなかでも、様々ございまして。かなり「住宅マスタープラン」なんかだと、結構細かいところまで書いて、誰が主体で、どういう役割でやっていくのかということも、星取表になっていたりするのですけれども。</p> <p>できるだけ。細かく書きすぎて見にくいということであれば、ある程度、まとめていくということも必要かなと思います。完全に決めきっているわけではありません。計画の体裁として。</p> <p>それは、先ほどの資料2のなかで、第4章のところの項目建てが、結局、条例前と条例後で、期待感が持てないという御意見があったのですけれども。そことも絡んでくるかなと思っております。</p> <p>結局、項目というレベルでいうと、ものすごいスタープレーヤーをここに、条例後に、いきなりぼんと登場するかというと、必ずしもそういうことではなくて。やっぱりこう、順番の話はあるのですが、こういうところを書いてあることを、はいつくばって一歩でも前に進めていくということで、我々はしていかないといけない。</p>
中嶋委員	<p>そういうふうに思いますと、最後のところにまとめさせていただいた、個々の条例振りだとか、順番だとかは、いろいろまた、御意見、お知恵をいただいてやっていきたいと思うのですけれども。</p> <p>できるだけ具体的に、何が違うかということは、表させていただいた方が理解は深まるのかな。また、そういう意味で、いろんな市内、市外を問わず、健全な、それに対する御意見もいただいて、さらにブラッシュアップしていくきっかけにもなるのではないのかなというようなことは考えております。</p> <p>やはり施策まできちんと書いていくならば、やっぱり、かなり議論しなければいけない。いろんな細かい点、御指摘いただいたんですけれども。そうじゃなくて、もっと大きな方向性の項目を、もう少し議論して行って、前回の計画とどこが違うのかが、その4章の節建てのなかに出てくるようなレベルのお話でいいのかで、だいたいこう、ここで議論する内容が変わってくるような気がいたしまして、それが、一番大きいのですが。</p> <p>もし、その取組をこのまま、ちょっと4章に入れていくのが、ちょっと厳しい</p>

<p>高田会長</p>	<p>かなというのが、今回の感想として持ちました。というのはやはり、これまでの施策の評価がきちんと、どこまでできているかということをも最初に申し上げましたけれども、やはりその改廃というか、あるいは事業の統合みたいなことも検討していくべきだと、いま、御意見も出たかと思えますけれども。どうしたらいいんだというような。</p> <p>多分、審議会の役割としては大きなフレームを示すということで。ただ、この「保全・継承推進計画」という行政計画のなかには、ある程度の施策、具体的な施策に、直接つながることが書いてないといけないということに、多分なるのだと思います。</p> <p>この、我々の出す答申のレベルが、まあ、そういうことも議論した上で、アウトプットとして、どういう答申を出すかという話は、そこまで詳しくなくてもいい。そういう議論があるんじゃないかなという気がいたしますけれども。</p>
<p>志藤委員</p>	<p>いわば、計画の骨子をここで議論していただくというふうに考えた方がいいですね。我々に求められているのはね、ということですね。</p> <p>ただ、施策の、特にこれまでやってきたことの関係という議論になると、今、出たような、具体的な話を踏まえて骨子をつくらないといけないという、そういう理解でいかがでしょうかね。他にいかがでしょうか。はい。</p> <p>骨子というところなのかなというふうには思うのですが。ただ、ちょっと骨子を考えるにあたって、中嶋先生がおっしゃっているみたいな、ちょっと過去に、これまでやってきたところが、どういうふうなことなのかというのを踏まえて、ちょっと意見を上げたいなという点があるんですけど。</p> <p>先ほど、棟梁がおっしゃっておられたみたいに、意識というところは、すごく大事だと思うのですが。持っておられる方、その家族の方、その親族の方という方等を含めてですけれども。それを取り巻いて一緒に地域での暮らしを守っている住民の方々の意識というところも、非常に大事だと思うのです。</p> <p>そこを変えていく手だてというか、そこにアプローチしていく手だてとして、今回、「横断的な取り組み」というところの5のところ、ここでいうと10ページのところに、「自治組織、市民活動団体との取組推進」というのが出てくるのですけれども。</p> <p>ちょっと私も、若干地域等に出向いたときに、自治会などで空き家対策に関することを調べてくれと言われて、調べました。ところが、その後が、どういうふうに展開するのかというのが、あまりよく分からないというふうなお話であるとか。協議会等ができた後に、どういうふうに進んでいくのかというのが、あまり具体的にちょっと見えてこないのです。</p> <p>そういう意味で、ひとつは、これまでの取り組みの継続というかたちで掲げておられる、地域景観づくり協議会という団体というものが、実際、どのような内</p>

<p>高田会長 事務局</p>	<p>容で、どういうふうな活動を、どういうふうに進めてこられていて。それがどういうふうに、いま、到達されておられるのかということ、どう評価されているのかということと。</p> <p>空き家対策の促進事業、いくつか進めておられましたけれども。それも自治会にお願いされるなど、いろいろしていたと思うんですけど。そこに対しての評価ということも、ちょっとお聞きしたいですね。</p> <p>特に、市民参加というか、住民参加というのが、この条例等、進めていく上で、非常に必要な観点だと思うんですけど。そこの関係でいうならば、どういうふうに、市民、住民が、何て言いますか、町家ということも含めて受け止めておられて。これが、これまでの施策のなかで、どういうふうに進めてきているのか。</p> <p>残された課題として、取り組みへの支援を行うということも書いておられるんですけども、もうちょっと具体的な。例えば、今回新たに京町家の保全・継承に向けたまちづくり活動の支援ということで①に掲げておられますけれども。具体的な支援の中身というのは、何か考えておられるのかということも、ちょっとお聞かせ願えればいいかなと思います。</p> <p>非常に、意識ということを支えていく上で重要な観点だと思いますので、ぜひ、お願いします。</p>
<p>志藤委員 事務局</p>	<p>事務局から、いまの質問に対して答えをください。</p> <p>地域景観協議会とか、地域連携型の空き家活用促進事業であるとか。さまざま取り組んでいるところがあるけれども、どういうふうに取り組んでいて、どんな成果があるのか点ですが、私も、直接携わっていないところもあるので、きちんとした答えが返せるかというところがあるのですが。</p> <p>地域景観づくり協議会そのものの制度は、志藤先生はご存じですかね。</p>
	<p>はい。だいだい。</p> <p>地域景観の手続きの前に、地域の意見を聞かなければならないという、そういった仕組みになっていて。ここでは、小島さんがご存じなんですけども。</p> <p>もちろん、意見交換というレベルなので、いろいろと課題、そういったものがあるという状況です。その課題があるのだけれども、このツールを生かして、どう事業者と地域の景観をつくっていくのか。前向きな議論になっている事例なんかも、事業者によってはあるということで。いろいろ課題を抱えながら取り組んでいる地域同士でネットワークを組みながら、いま、進めているということで。地域のなかでの景観に対する意識付けみたいなことについては、少しずつ芽生えていっているというところも多いのではないかなと聞いているというところで</p>

<p>高田会長 志藤委員</p>	<p>ございます。</p> <p>また、地域連携の空き家活用というのも、これも平成22年ごろから始めて、これは少し、私もちょっと関わった経験があるのですけれども。確かに、空き家を調べて把握する。こういったところまでいって、その後、どうするのかということについて、当初はちょっと「活用」ということに、あまりにも重きを置いたために、かなり地域としてしんどいというところがありました。</p> <p>空き家の要望であるとか、そういった、相続の相談から入っていくということで、業者の方と連携してやっていくということでのやるのか。また、地域自身だけで取り組むのでなくて、支えてくれる専門家、そういったNPO法人が立ち上がっていくというような成果がありました。そういったところが、ほかの地域に対しても、支援をしていくというようなことも動いているということがあります。</p> <p>それぞれの地域で、取り組みの活動のレベル感というか、そういうものは多様ではあります。多様なことを地域の課題に取り組んでいこうというきっかけにはなっているんじゃないかなというふうに感じているところがございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>今のでよろしいですか。ちょっと、多分、消化不良だと思いますが。</p> <p>おっしゃられるとおり、かなり消化不良でございますが、また、それぞれのところの団体のことを、調べればいいのかというふうには思います。御存じであるならば、また聞かせていただきたいと思います。</p> <p>それを踏まえて、①というところが出てくるのかなと思うのですが、その具体的な中身というのは、どうなのでしょう。</p>
<p>高田会長 志藤委員 事務局</p>	<p>そうですね。支援する中身について、具体的なところは、今、ここではお示ししていませんが、例えば、今までであれば、地域のなかに、専門家であるとか、いろんなプレーヤーがいて、地域だけで何か考えていく、本当に地元の人だけでやっているというところもあれば、やはり、外からのいろんな専門家の支援を受けながら進めていっているというところもございます。</p> <p>そういった専門家を派遣するといった、今までのまちづくりの専門家派遣みたいなことも、方法としてはもちろんありますので、そういったものも、支援の一つとして考えられるのかなというふうには思っています。</p> <p>取りあえず、よろしいですか。</p> <p>分かりました。</p> <p>今お話しに出ました空き家対策の事業については、現在、地域連携型空き家対策促進事業ということで、市内全体で約200ある学区のうち、全部で55の学区で</p>

小島委員

取り組んでいただいております。確かに学区、自治会によって、だいぶレベルの差というのがあるのも事実かなと思います。

ただ、まずやっぱり、空き家問題に目を向けていただけるということが、一つ大きな効果ではないかと思います。そうしたなかで、進んだ学区ですと、例えば、そこでの活用というかたちで、実際に地域のコミュニティーの場にするよう、所有者の方にも働きかけをされ、実現した例もございます。

地域によって特性がありますので、中では、一概にゲストハウスが悪いというわけではなくて、逆に、その資源としてゲストハウスとして使って、地域と調和したかたちでやられるなど、様々なかたちで活用は進んでいると思います。

確かに、計画的なものというか、そうした段階までで止まってしまっているところもございまして、そこをどう今後、転がしていけるか、展開していくかということは、非常に大きな課題かと思えます。

その中で、我々も空き家相談員の方や、不動産業界の方々にも御協力いただいておりますし、それ以外に司法書士の方とか、行政書士の方、いろんな専門家の方と連携しながら、その地域に入っていく、そこをどう、今後、展開させていくかというようなところを、今模索しているといった状況でございます。

私どもの明倫学区は、地域景観づくり協議会に名乗りを上げて認定を受けました。その前には、まちづくり委員会というのがあって、それが母体になっていて、明倫学区全体の景観を守る取組をやっていますが、とても大変です。

基本的に住民の組織ですから、そこへ、いろいろな人たちを呼び込んでというか、協力をお願いしてやっています。

なぜ、そういうことをやったかというのは、明倫は都心部ですので、すごく目まぐるしく町のかたちが変わっていき、どんどん新しいものが建てられる、建築行為がどんどん行われるのですが、景観づくり協議会に名乗りを上げれば、その情報が得られるということだったからです。

ある日突然、何か近隣でものを建てますと言われてしまう、これが大変やからということで、その情報が事前に得られ、協議ができるということが、とても魅力的でした。それについては、私は、よかったと思いますが、ただ、それだけなんです。

建築事業者に、協議をしてくださいということで、協議をして、良くて悪くても、私たちは、もうちょっとこうしてください、ああしてくださいと言ったって、聞かへんところもあるし。それと、業者によっては、ものすごい、とんでもない業者が来はったりするけれども、その対応は、全部住民に任されて、それで、レポート1枚、協議相手の業者が勝手にこんな協議をしましたって書かはって、出さへんところおしまいになってしまうことが多いんですね。

最近、私たちのところは、景観づくり協議会の会長がはんこを押さないといけないと受け取ってもらわんといてくださいと、市の方をお願いをしています。でも、お願い

<p>高田会長</p> <p>山田委員</p>	<p>ですので、そのような対応をしてくださるかどうかは分かりません。協議相手の業者が勝手に出さったりレポートでも、受け取らるかもしれない。</p> <p>それでも私たちは、建築行為については一番に知ることができるけれども、潰さはるときは分からないから、どうしようかということ去年議論しました。</p> <p>それで今回の、町家を潰すときにはちゃんと申請をしてくださいという条例ができたなら、地域としてここへ名乗りを上げたら、建築行為じゃなくて潰したり、移動しはるときの情報が地域に入ってくれば、とてもありがたい話です。そこで、いろいろなことが考えられたら、今よりもっと、みんなの精神的な負担も和らぐかと思います。</p> <p>今、毎日、毎日、地域景観づくり協議会で呼び出されています。1週間に2回あるときもありますし。それをみんな、素人集団が受けるわけですから、とてつもなく大変なんです。</p> <p>ただ、こういう条例をつくることによって、そういうものがもう少し補われるようになるんだったらという期待もあって、本当に、早く地区指定をしていただきたい。地域によって、個性はありますけれども、明倫学区だけじゃなくて、他のところも大変困っているところは多いと思いますので、全体を指定していただきたい。</p> <p>そうすれば、今、権限も何もないなかで、手探りでやっていることが、少しでも楽になるんじゃないかなと思います。</p> <p>はい。ありがとうございます。山田委員、いかがですか。関連する御意見がもしあったらどうぞ。空き家の話も出ましたので。</p> <p>まず、この資料4を読ませていただきまして、ほぼ、受け皿としてはできているのではないかと感じておりますが、なかなか、これからかたちにするのが難しいのではないかと考えています。</p> <p>そういったなかで、最近、ゲストハウスが非常に多くなってきています。この間も新聞に、お客さんのいないときに、京都らしいゲストハウスに子どもを招くという取組の記事が載っていました。</p> <p>町家のゲストハウスっていうのは、京都を強調して演出するものとしては、ものすごく分かりやすいですからね。それを使って、子どもたちに学ばそうと、小学校なんか取り組んでいるみたいです。</p> <p>それから、学校によっては、お茶の稽古をやっています。ああいうのも、京都の町家を学ぶのに非常に分かりやすい、一つの稽古事かなと思ったりするんです。</p> <p>そういったなかで、この京町家への意識というのですかね。そういうものが高まっていくのではないかなと思っています。今の子どもたちも、恐らく大人も、京都の町家の良さというのが分かっている人は少ないと思うんですね。</p>
-------------------------	--

高田会長

若村委員

だから、子どもの時からそういうものを学ばせて、また、大人もそういう学べるような、そんな場が、これからもたくさん作っていただけたら、町家に対する意識というのですかね、こういうのがすごく生まれるのではないかなと考えています。

先ほどの明倫の方と一緒に取組をさせていただいているのですが、まだ、うちのところの場合は、景観づくり協議会ができていません。これは、やるとなると大変やなと思って見ているのですが、実際、学区のことを考えたら非常に大事な事かなと思っておりますので、今後、勉強させていただきたいなど、そのように感じています。

はい。どうもありがとうございました。若村さん、何か。

いろいろお話を聞いていまして、ちょっと思ったのは、この資料4の、いろいろな政策が入っていますけれども、ほとんどが京町家という建物に対する政策ですね。税金の件ですとか、修復の件ですとか、さまざまな建物に対する政策なのです。

やはり、もうひとつ両輪が欠けているなと思うのは、この京町家に住む人と、これから住みたい人、または、今後、住んでいくであろう人など、やっぱり、人に対する政策が欠けているのかなというのをすごく思いました。

もっとシンプルに見ると、やっぱりこう、住みたいのか、継承したいのかと、人に主体があるので、その人に対してもっと政策を打っていく方が効果的なのかなと思います。シンプルに見ると、町家を所有している人と、これから担い手になる人、この二つだと思うんです。

所有者から見ると、継承するか、誰かに貸すか、誰かに売るか。多分この選択肢が限られている。それぞれ、継承するときはこういう政策がある、貸すときはこういう政策がある、売るときはこういう政策がある、といったように、政策の方は、町家に対する、ものに対する受け皿というのは結構できていると思います。

一方で、その所有者が売ろうと思ったのをどうやって貸すようにするのか。貸すように思った人をどうやって継承にもっていくのか。これが、多分意識の課題のところだと思うのですが、そういう政策を、人に対してもっと打っていくと、もしかしたら売ろうと思ったものが継承にいくのかなと思うところもあります。

例えば、担い手の方の人に注目をしていくと、どういうときに引越しをする、町家に住むかといいますと、例えば、観光客でいいますと、やっぱり、さっきの京町家に1回住んでみるというのもひとつですね。

今まで、観光で京都に来ていたのが、京都に住もうと思う気持ちが出る。あと、例えば新婚さんに、町家に住めば家賃が2割負担だとか。新婚だったら絶対新居を構えますから、マンションに住もうと思ったところを町家にしてもらおうという

<p>高田会長</p> <p>梶原委員</p>	<p>政策が出るだろうし。</p> <p>例えば、単身で来る人もいますね。会社に勤めていて。どこかの企業さんに、長屋を1軒借りてもらったらそれを助成しますよとか。長屋という社宅を京都では持とうと企業向けに働きかけたり、学生が入ってくるときに町家に住めば住宅の負担がちょっと軽くするなどしたり、人に注目を置くと、もっともっといい政策が出てくるような気がします。</p> <p>シンプルにいうと、本当に所有者と、担い手、ここに対して、どういう政策をしていくか。その「人」が住みたいと思うような意識を高めていく政策ですね。ここを重視していくと、非常にいいのかなと思います。</p> <p>その間に、不動産の方があつたら、流通がする。その不動産の流通を安心できるものにするため、専門性があるなど、安心できる要素をつけていけば、必然と流通も起こるような気がしますので。何か、もう少し人に注目をして政策を打っていてもいいのかなと思っています。</p> <p>はい。どうもありがとうございます。流通の関係でいうと、梶原委員ですね。</p> <p>京都宅建なのですけれども、我々、空き家であれば、専門相談員というかたちで協力させていただいて、そういう御相談をさせていただいております。</p> <p>もともと我々は、マッチングということをやはり前提に考える必要があります。実務的に、どういうときにマッチングが必要となるかという、やはり相続のときですね。</p> <p>相続のときに、解体するか、あるいは、耐震改修をするしかないとなった場合、耐震改修をすると3千万円を超えます。ここを、京都市さんとも言っているのですけれども、その辺のところを国の方にもう一度、言っていただきたいと思えます。</p> <p>それとやっぱり、住宅ローンですね。先ほど、カルテのことをおっしゃっていたが、これはこれで、一定の役割を果たしている。というのは、いわゆる非道路である、接道していないところでも、京町家というカルテがあれば、住宅ローンというかたちで融資を行える、これは、京信さんなんですけど、こういう、一つの実績がある。</p> <p>もう一つ踏み込めば、いわゆるセカンドローンというものがあります。東京にお住まいで、京都の文化に、京町家に住みたい、こういう方は大変いらっしゃるんです。ただ、属性もいいのですけれども、なかなか、セカンドローンがつかない。ここにもちょっと問題がある、これからの課題かなという気がいたします。</p> <p>だから我々は、マッチングするためにどうすればいいのか考え、専門的なことを知っているだけではなかなか難しいので、やっぱりファイナンスとか、そういうものを組み合わせてやっていくということが大事だと思っています。</p>
-------------------------	--

<p>高田会長 内山委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。内山さん、何か加えて御発言があればどうぞ。</p> <p>そうですね。予算的な問題で、もう少し、現実的に資金を集めて、もっと継承しやすいような体制づくりができたらいいなと、現実的な話として、そんなふうに思います。</p>
<p>高田会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。宮川委員、発言をいただいて、何か、最後にコメントなりお願いします。</p>
<p>宮川委員</p>	<p>はい。事業については、うちが当事者というところもあるので、言いにくいところがあるので、そこを言うのはちょっと控えさせていただきます。</p> <p>先ほど、中嶋先生からお話があったように、どこまで具体的な取り組みができるかという話ですが、条例のなかにも、この推進計画は、目標と取り組みをしっかりと明記しなさいというふうなことが書かれているので、ある程度、具体的なもので頭の体操をしないと、イメージが湧かないということもあると思います。</p> <p>こういう資料4のような、資料は必要だと思います。ただ、それを最終的な計画のなかにも、どこまで落とし込むかは、先ほど、会長がおっしゃったように、この場では大きな方向性とか、理念のところをしっかりと議論をして、その理念に合うような施策をしっかりとするというやり方もあるでしょうし。</p> <p>それは、これから、この審議会のなかで決めていくのかなと思います。ただ、ある程度具体性がないと、なかなか議論ができないのは事実だと思います。</p>
<p>高田会長</p>	<p>時間がもう来ておりますが、どうしてもという方があれば、御発言いただいたらどうかと思いますが、いかがでしょう。よろしいですか。</p> <p>私は、今までの議論を聞いておまして、最初の方で有本委員が問題提起をされたり、あるいは、木村棟梁、若村委員も言われたりしましたが、住まい手の視点とか、地域での生活とか、要するに、生活者の視点というのが、大変重要だと考えます。ここでは「意識」という表現になっているわけですが、</p> <p>そういう、何のために町家を残すのか、継承するのかというような、根本的な価値観に関する記述が、やはりこの計画のなかにも表現されている必要があるし、施策としても、そういうものを深めるような施策というのが、まだまだ要るなということ、今日の議論を通じて感じました。</p> <p>それを、このフレームのなかでどのように落とし込めばいいのかということなのですが、この、今の課題の1、2、3の順番をどうするかという今日も議論もありましたので、これについては、もう少し継続して議論をする必要があると思いました。</p> <p>この順番もさることながら、やはり、この京町家の保全・継承推進の意義について、より深めていくための議論も必要だし、施策としても、そういうものを深</p>

めていくための施策ということも、多分要るのではないかなと思いました。

今、この流通・継承というのは、ドライに見れば不動産市場の話であり、この維持、修理とかいうのは、もちろん、そこに住まい手の役割とかもあるわけですが、建設市場の話であります。

この意識と書いているところが、辛うじて暮らしとかコミュニティとか、そういう生活の領域を扱っているということなのですが、そういうふう考えた方がいいのか、あるいは、意識の問題の部分だけを独立させて、木村棟梁の言われるように、出した上で地域社会の話とか、まちづくりの話は、別途、組み立てた方がいいのか、というような可能性はあるかなと思いました。

今、地域のコミュニティの問題とか、先ほどの地域での取り組みの話は、最後の第4章の「横断的な取組」のなかに位置付けられていて、大変重要な話がここに載っているということになります。

条例との関係でいうと、基本的な取組のところは、今回の条例としては仕組みを検討して、整備した部分だというふうに思いますが、この条例を、次のステップに進化させていくということが必要だと思うんです。

その進化させていくポイントとして、今の「横断的な取組」の5番目に書かれている、「自治組織」とか、「市民活動団体等の取り組みの推進」というようなことを、もっともっと詰めて議論をして、生活文化の継承と発展ということを推進しなければいけないという話になると思います。

今の条例の枠組みだけでは、ここの部分は必ずしもフォローしきれていない側面もあると思うので。今の書き方は、要するに横断的な取り組みのここに入っているというのは、次のステップとして、ここのところを条例の進化につなぐというような側面もあるんだろうというふうに思います。フレームとして、それをどういうふうに表現したらいいのかというのを引き続いて検討した上で、次回にもう一度、その議論に立ち返るのがいいかなと思います。

いずれにしても、宮川委員が言われたように、こういう具体的な話をしながら、フレームの話をするということをやらないと、今のような議論はできないと思いますので、今日の資料構成としては、こういうかたちで引き続いて出していただいて、我々として、このフレームをどうするかを議論したいと思います。

それから、志藤委員が言われたような、全体としての論理性といいますか。どういう文脈で、これが語られているのかということも非常に重要だと思います。そのことについて、もう少し詰めるということで、継続的に、次回もそういうことを少しやっただけで答申案にまとめていくというようなことで、お願いできればと思います。そういうところでよろしゅうございますでしょうか。

何か、次回に向けて資料請求とか、あるいは要望があったら出していただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それではすみません。進行が不手際で、時間がオーバーしてしまいましたが、今日、予定していた議事そのものは以上でございます。次回以降の予定について

事務局	<p>の説明をいただく必要がありますので、事務局の方から、次の審議会の予定等について、御説明をお願いいたします。</p> <p>3 第5回審議会の予定</p> <p>次の第5回審議会につきましては、事前に日程調整をさせていただいておりますように、7月10日火曜日の18時からということで、開催させていただきます。場所は「かもがわ」、こちらの方になります。会場の都合、準備の都合で、5時半からしか会場の方が開かないので、5時半以降に起こしいただくようお願いいたします。</p> <p>また、もともと、この審議会につきましては、5回の審議会をやって答申をとりまとめるということで考えておったのですけれども、今日まで議論させていただきまして、最初に指定の話を議論させていただいたほか、今日もいろいろと多数の意見をいただいております、なかなか、あと1回で答申を取りまとめるころまではいかないのではないかとこのように思っております。</p> <p>次回をやってから日程調整をするという方法もあるのですが、そうしますと、なかなか日程を確保することが難しくなってきますので、次回、開催までの間に、第6回の審議会をすることについての日程調整をさせていただこうと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>はい、よろしいですか。当初の予定よりも少しずれ込んで議論を続けるというような、今の事務局案ですが、そういうことでよろしゅうございますでしょうか。それでは、大変皆さんには御苦勞をかけることとなりますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>10分くらいオーバーしてしまいましたが、本日はどうもありがとうございました。</p> <p>4 閉会</p> <p>それでは、以上をもちまして、審議会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
高田会長	

事務局	
-----	--